

現代カザフスタンにおける高麗人社会の動態に関する研究 ——高麗人の定義の多様性と地域別のアイデンティティを中心に——

平成 27 年編入学
派遣先国：カザフスタン
李眞恵

キーワード：ソ連崩壊、新生独立国、国民統合、中央アジア、カザフスタン、高麗人

対象とする問題の概要

ソ連崩壊後、新生独立国のカザフstanは、基幹民族としてのカザフ人中心のカザフ化 (Kazakhization) 推進に全力を注いでいる。カザフ化によるカザフstanの国民統合過程で、カザフ・アイデンティティの確立と諸民族間の和合は最も核心的な問題であり、両立し難い事案でもある。独立後の、中央アジア諸国における高麗人社会の動態は、各国ごとに国民統合の形が異なるという外部的要因と、各国ごとに特徴のある高麗人社会のあり方により、国民統合への対応もそれぞれ異なる。その中で目立つのは、当該国家から脱する流出人口の増加に代表される人口移動現象である。しかし、カザフstanの場合、高麗人社会の流出人口の変化はほとんど現れず、むしろ流入人口が増えたことが確認された。このようなカザフstan高麗人社会の変化に注目し、その変化の要因について考察することが必要であると考えられる。



図1 カザフスタン
表1 カザフstanの基本情報

公用語	カザフ語、ロシア語
首都	アスタナ(最大の都市:アルマトゥ)
大統領	ヌルスルタン・ナザルバエフ
人口	16,967,000人(2013年)
面積	2,717,300(9位)
GDP	35兆2,752億テンゲ
独立 (ソビエト連邦より)	1991年12月16日

研究目的

以上のような背景を踏まえ、本研究は、カザフstanの国民統合、すなわちカザフ民族中心のカザフ化の推進にもかかわらず、高麗人社会での人口移動に特別な変化がないことに着目し、その要因が国民統合に対する高麗人社会の受容的対応と関係があるという仮説を設定する。まず、カザフstanの国民統合過程の特徴を検討し、次に、高麗人社会では本過程がどのように受容されているのかを具体的に明らかにする。最終的には現代カザフstanにおける高麗人社会の動態に関する研究に発展させたい。

フィールドワークから得られた知見について



写真1 強制移住後の最初の定着地
「ウシトベ」-a



写真2 強制移住後の最初の定着地
「ウシトベ」-b

フィールドワークで、カザフstan高麗人社会の主な機関、すなわち高麗人協会、高麗日報、高麗劇場、高麗語テレビ放送局、ラジオ放送局、高麗学校、高麗人文化中央等を訪問し、代表者や関係者の高麗人を対象にインタビューを実施した。カザフ民族中心のカザフ化に対する高麗人社会の受容的变化は多様な形態を有することが示唆され、



写真3 高麗文化中央總會

中でも、特に高麗人自らの自己認識と高麗人の出身地域が彼らの受容に少なからぬ影響を与えていることが推測された。そこで、本調査では高麗人の定義の多様性の検証と高麗人の出身地別分類を行い、高麗人とカザフスタン高麗人というアイデンティティについて精査した。

調査から得られた結果は二つである。一つ目は、高麗人の定義と分類についての結果である。「高麗人」は自らの名付けから始まった名称であった。彼らが自らを高麗人と呼んでいる理由について歴史を遡り、三つの観点を得た。また高麗人を出身地域や移動の時期によって分類すると、最初に沿海州へ移住した沿海州高麗人、スターリン時代に中央アジアへ強制移住された中央アジア高麗人、ソ連崩壊

後独立した旧ソ連地域へ移住した現在の国籍がない(ソ連の国籍を持っている)無国籍高麗人である。

二つ目は、カザフ人と高麗人の関係性とカザフ化に対する高麗人社会の受容的対応についての結果である。フィールド・ワークでの聞き取りでは、多くのカザフスタン高麗人がカザフスタンが自分たちを育ててくれた地であると主張した。特にカザフ人に対しては、強制移住当時に高麗人にパンを配るなどして支援をしてくれた民族であることを重要視し、カザフ民族への感謝を表した。カザフ人も高麗人を真面目な優秀な民族と高く評価している。農業に従事する定住民族である高麗人と遊牧民族であるカザフ人の間には役割分担を通じて協力関係を構築することができる信頼が形成されているようだ。また、若い高麗人はカザフ人とともに生きるならカザフ語の習得が必要であるという認識を持っている。このように、カザフ化に対するカザフスタン高麗人の対応は、受容的であることが確認された。

今後の展開・反省点

筆者は、現代カザフスタンにおける高麗人社会の動態に関する研究を進めるため、先ず高麗人の定義と分類について考察した。この点については、今後も詳細な調査を実施する予定である。カザフ化政策に関する高麗人の現地からの声と受容的対応を綿密に考察し博士論文に反映させたい。また、現代カザフスタン高麗人のアイデンティティについて考察するためカザフスタン高麗人と他の民族間の関係の検討も必要になってくるはずである。